海を照らす灯台のなかまたち（15）

～佐島灯台（さしまとうだい）～

八幡浜港の沖合に浮かぶ佐島には、かつて明治から大正にかけて佐島精錬所があった。

佐島精錬所は、明治 26 年地元有力者の共同出資にて操業を開始、明治 40 年 4 月からは、明治精練株式会社の所有となり、大々的に操業を拡張した。鉱石は、当時、別子銅山に次ぐとまで言われた大峰鉱山（現：八幡浜市保内町川之石雨井地区に所在）、八幡浜周辺や三崎半島に点在する多くの鉱山から運び込まれる買鉱が充てられた。

もっとも賑やかであった大正 3 年度の従業員数は、男女合わせて 263 人、同年の製品価格は 87 万 4,713 円となっており、当時の盛業ぶりが偲ばれます。

大正 8 年に閉鎖された後は、二度と操業が再開されることはなく、現在は全くの無人島となっています。

今も島には鉄骨むき出しの溶鉱炉の廃墟が残されているが、旧別子の高橋溶鉱炉に使用された「円筒炉」ではないだろうか、「円筒

炉」は明治 12 年、かのルイ・ラロック（フランス人鉱山師）の進言により、高橋溶鉱炉と惣開精錬所に導入された別子銅山初の洋式精錬法であり、「目論見書」には、その詳しい設計方法と設計図が残されている。

もし、それが正しければ、佐島の廃墟は大変な近代産業遺跡ということになるらしく、識者によれば何らかの保全と保護策を講じる必要があるとのことである。

【佐島】

【佐島周辺図】

〇佐島灯台要項

所在地	愛媛県八幡浜市（佐島）
塗色・構造	白色、塔形
灯　質	単閃白光　毎３秒１閃光
光達距離	7.5 海里（13.9 km）
高　さ	地上から構造物の頂部まで　9.1m
	平均水面上から灯火まで　58.0m
	地上から灯火まで　9.0m
	点灯年月日　大正９年 11 月 20 日

★「大八車」№２２９令和３年２月 10 日発行）掲載分

○佐島灯台及び付近

佐島灯台

灯室内

灯室内

LED 灯器

L 太陽電池パネル